

ルネサンスの影の英雄

かつて、人間のものの見方がこれほどまでに激変した時代があったであろうか。世界が全く新しい概念で捉えられ、それはまさに、暗黒の時代から開花の時代へ、つまり、暗から明、色彩、空間、深さ、発明へと大きく変化した時代の出現であった。そこでは、著述家は科学者に言葉を教え、数学者は芸術家に均衡・調和を教えたのである。これがルネサンス(文芸復興)であり、科学は芸術に新しいエネルギーを供給し、これを原動力として芸術は斬新な世界を造りる。ルネサンスの立役者のなかで、その表舞台上で活躍したルネサンス人と呼ばれる人々の多くを我々は知っている。

一方、彼等とは別に、五百年以上たった現在の我々の生活に少なからぬ影響を与え続けているルネサンスの影の英雄達がいる。ルカ・パチョーリは、その影の英雄の一人なのである。彼の名を知る人は少ないが、現代人はすべて彼の遺産の恩恵を受けている[「会計の父」と呼ばれるそのパチョーリの物語である。]

まずはパチョーリのおいたちを知る必要があろう。約五百年前に、ここ、イタリアのタスカーニ(現在のアレッツォ県)の一田舎町サン・セポルクロでパチョーリは生まれた。

現在のサン・セポルクロの町には、計算機、ファックス、コンピュータがあるが、ルカ・バルトロメオ・パチョーリが生まれた1445年当時は、会計は芸術とか科学といったものではなかった。パチョーリは、その会計を芸術や科学のレベルに引き上げるためにこの世に生を受けたといってもよいであろう。少年時代のパチョーリは、今私が歩いているこの同じ石だたみの道を遊びまわっていた。いまでは街角にあるこの記念碑にも彼の業績が刻まれている。貧しい家庭に育ったパチョーリの将来は決して明るいものではなかった。青年となった彼はその環境からの脱却を決心したが、まさかこの青年が、その後の世界経済史の行方を決定する人物になるとは、誰も、いや、彼自身知るべきもなかった。

「パチョーリの時代の文化ルネサンスは、経済ルネサンスによって促進された。この関係が成長することにより、芸術が大きく開花したのである。このようなルネサンスのうねりは、イタリアに留まらず外へ波及していった。しかしながら、商業のメカニズムがヨーロッパから全世界に広まるには、それが文章になってなければならなかった。ここにルカ・パチョーリの貢献がある。」(David Tinius, ph.D)
「パチョーリはルネサンスを代表する人物である。ルネサンスにおける彼の足跡は、当時の芸術、ビジネス及び科学の相互的關係の解明にみることができる。この相関関係がなければ、おそらくルネサンスは起こりえなかったであろう。」(Kirk Von Durer)

「パーソナルコンピュータ産業及びマイクロソフトの成功は、スプレッドシート(表計算ソフトウェア)にもとづくものである。

そのスプレッドシートは、ルカ・パチョーリが発表した複式簿記システムから直接発展したものなのである。」(Francis J, Gaudette)

その当時は、貴族、富豪の子弟以外、16才以上の若者が教育を受け続けることは普通なかった。

サン・セポルクロのフランシスコ僧院で宗教と商業の訓練を受けた後、その当時の若者がそうしたように、パチョーリは、その地方のある商人のところに奉公に入った。

しかし、しばらくして、パチョーリは違う道に進むことを決心することになる。

そして、それが彼が興味を持っていた科目、数学へと近づくことになった。

「私は、ずっと以前から数学・神学に興味を持っていた。」(Pacioli)

彼は、数学への執着から奉公をやめ、人生の新しい第一歩に大きく踏み出したのである。

そして、その一歩は、彼の人生と仕事を完全に変えたのである。

パチョーリは、サン・セポルクロで、

当時の著名な画家であったピエロ・デルラ・フランチェスカのもとで数学の手ほどきを受けた。

ピエロ・デルラ・フランチェスカはパチョーリよりも25才以上も年上であった。

そして、彼はパチョーリの将来性をみぬいたのである。

この指導者がパチョーリに知識、経験への扉を開いてくれたのであり、その扉はこの指導者なしには永遠に閉ざされていたであろう。

「年長者に知りあえると毎日が有意義です。」(Pacioli)

ピエロ・デルラ・フランチェスカは、ラテン学者で詩人、かつ、宇宙誌学者でもあった。

彼は、遠近画法及び画像に関する本を書きしており、彼の絵画にみられる幾何学的手法は彼が一流の数学者であったことを物語っている。

フランチェスカは、才能豊かな数学者として、科学の芸術性について彼の知るところのすべてをパチョーリに教えた。

また、指導だけにとどまらず、彼はパチョーリを友人達に紹介した。

ある時、この師弟は、フェルデリニコ・ウルビノ公の壮麗な図書館をめざして、アペニンの険しい山々をぬって一緒に旅をした。

パチョーリは、この旅はもとより、その書院とその書院にある四千冊以上の蔵書に深く感銘した。

公爵の令息グイドバルドとの友情を深めた彼は、後において、最も有名な論文の一つ(正四角体のモデル集)を奉獻している。

「フェルデリコ公とその令息グイドバルドを紹介してくれたのは、絵画の王と呼ばれたピエロ・デルラ・フランチェスカでした。

また、私が最初にその図書館から数学に関する本を取り出し、それを日常使用できる形にすることを打ち明けた相手もピエロであった」。(Pacioli)

アイデアや情報の交換及び交友関係の拡大は、パチョーリを含むルネサンス人の特徴であった。

ピエロが次に紹介した人物は、初期ルネサンスの作家及び建築家として知られたレオンバッテスタ・アルベルチであった。

パチョーリのこの新しい指導者は、パチョーリにまた新しい可能性の扉を開いてくれた。

それは、サンセポルクロから光り輝くヴェニスに開かれた扉であった。

アルベルチは、言語学者で建築家であり、かつ、芸術家、科学者でもあった。

また、彼は、彫刻、絵画及び建築に関する有名な論文を複数発表していた。

アルベルチは、分数割合の宗教的意義を信じており、それは、彼の定義によれば『神聖な数学的均衡』というものであった。

彼は、その手法を彼の作品に応用し、そのことによってルネサンスを代表する柱、礎石、アーチを造りあげた。

アルベルチは、ヴェニスの沖合の島ジュデッカに住む大富豪商人アントニオ・デ・ロンピアジア家の家庭教師をするよう、パチョーリに指示した。

こうして若きパチョーリは、この富豪の三人の令息の家庭教師となった。

「私は、この家に住み込むことになった。」(Pacioli)

ヴェニスでのパチョーリの生活は、半分は家庭教師、もう半分は著名な学者であるドメニコ・プラカディノのもとでの数学の研究であった。

パジョア大学にもこの時初めて訪問した。

20才になった時に、それまでに学んだこと、経験したことの集大成として、幾何学に関する論文を書きあげ、パチョーリの最初の生徒であるロンピアジア氏の三人の令息達に記念として贈呈した。

1470年のロンピアジア氏の死を期して、パチョーリは、ヴェニスを離れ、前師アルベルチのもとに帰った。

師弟は、その後、すぐにローマに移った。

そこでアルベルチは、パチョーリ青年を、世界で最も重要な人物、ローマ法王パウロ二世に会見させたのである。

法王は、パチョーリに僧団(当時は僧団に入ると、団則によって、イタリア各地の宮廷及び著名な大学で講義することになっていた。)に入ることを勧めた。

ピエロもパチョーリが僧団に入って、数学の研究に関して教壇に立つことを強く勧めた。

「数学的概念及び手法を市場に導入するために、私の研究をイタリア語に直して、もっとおおくの一般の人々に紹介するようピエロからしきりに勧められた。

イタリア語(当時の論文はラテン語であった。)に直すことによって、

すべての人々が数学者の言わんとするところが理解できるからである。」(Pacioli)

このようにして、パチョーリ青年は、数学、芸術及び建築が、神聖なる着想により導き出された神聖比例の具現である、という信念のもとに教壇に立ちたいという熱き心を持つ大人へと成長していった。

1472年のアルベルチの死後、パチョーリは、ローマ法王の勧めを受け入れ、フランチェスカ派の僧団に入団した。

「商人の目的は、公正で合法的、かつ、最大限の利益の追及にある。それ故、取引上の全勘定科目に神の御名を賛美する言葉を付さなければならない。」(Pacioli)

1475年、僧侶で数学者のパチョーリは、教授で学者ともなり、最初の講義をペルジア大学で行った。

そこで彼は、彼の人生や指導の基本としている理論の実践化の重要性を、繰り返し強調した。

このパチョーリの理論応用への傾倒は、非常にユニークなものとして生徒達に受け止められた。

その後の20年間、パチョーリは、イタリア各地を歴訪して教壇に立ち、また、講義の合間をみては、法王に会見したり、論文の原稿を書いたり、画家のモデルとなったりした。

49才にして彼は、数学者、僧侶、教授、学者、そして著者として一躍有名人となったのである。

そして、『スママ』の発表は、ルネサンスにおける重要知識人としてのパチョーリの地位を確固たるものとした。

『スママ』は、ヴェニスにグーテンベルグ印刷会社がある。その会社の最初の印刷物として選んだほどに重要視された。(印刷に付せられた世界最初の文献となる。)

その印刷会社が発行した『スママ』は、5世紀以上たった今日においても、当時の色彩、手触り、明瞭さを保っている。

『スママ』のフルタイトルを読むと、『スママ』は数学に関する本であって、「算術、幾何学、比率、比例学の集大成」と題されていることがわかる。

しかしながら、その本のほんの一部分に書かれていることが、ビジネス及び経済の未来を決定的に変えてしまったのである。

そして、その一部分がパチョーリを『会計の父』と呼ばせしめることになるのである。

『スママ』によって、暗黒時代の経済に光をさし、それまでになかった経済の成長と発展への明確な道を開くことで、パチョーリは、過去から未来への橋渡し役を演じたのである。

『スママ』の中でパチョーリは、複式簿記システムによって商業取引を記録する方法を説明している。

ベネチア方式といわれるこの複式簿記システムは、現在ではあたりまえのこととされているが、当時はまさに画期的な発明であった。

資産 = 負債 + 資本 という単純明快な方程式が複式簿記会計の原点である。

『スُمマ』は、その後、何世紀にわたって受継がれ、複写され、オランダ語、ドイツ語、フランス語、英語、ロシア語に翻訳された。

そして、『スُمマ』は、教育者用のテキストとして、商人のマニュアルとして使われ、ビジネス、幾何学、比例学を学ぶ者達から、最高傑作として賞賛された。

世界で最も読まれた数学書と言う者もいる。

『スُمマ』の内容は、数学に関するものに留まらず、商業秩序の解説にも及んでいる。

「ほうぼうで多くの商人と知り合いになった経験から、商人として成功するためには、次に掲げる3点が必要だと私は判断した。

第一に、誠意をもってビジネスを行う上で最も重要なものは現金であるが、それがなくても信用(掛)を利用することができること。

第二に、商人は数学者であること。第三に、商人は、混乱を防止するため、すべての取引を一定の法則に従って記録できる帳簿係でもあらねばならないこと。」(Pacioli)

公刊された『スُمマ』に深い興味を抱き、数学及び比例学についてパチョーリの個人指導を熱望したある芸術家が、ここ、ミラノにいた。

レオナルド・ダ・ビンチであった。

ダ・ビンチとパチョーリの出会いによって二つの偉大な作品が世に出た。

一つは、『神聖比例論』であり、それは、パチョーリの代数学に関する論文の二番目のものであり、ダ・ビンチの図案入であった。

「この本の構成及び図案は、私の親友であるレオナルド・ダ・ビンチの手によるものであり、それは、他の追従を許さないものである。」(Pacioli)

パチョーリとダ・ビンチの友情の果実であるもうひとつの作品は、ミラノにあるサンタマリア・デル・グラジェの食堂の北側の壁に描かれたフレスコ壁画であった。

それは15世紀を代表する最も有名な絵画、ダ・ビンチの『最後の晩餐』である。

ダ・ビンチの立体表現にみられる遠近と均衡は、パチョーリが『スُمマ』の中でとりあげたものであり、二人がお互いに持つものを交換しあった結果であることがわかる。

実際、ダ・ビンチのノートにはパチョーリの名前がよく出てくる。

パチョーリは、特に、『最後の晩餐』にみられるダ・ビンチの特徴として有名な神聖幾何学の影響をおおいに受けた。

7年間続いた二人の交際は、外見上はギブ・アンド・テイクというものであった。

パチョーリは、ピエロ・デルラ・フランチェスカから得た遠近法に関する知識をダ・ビンチに教え、おそらく、ダ・ビンチの建築家への脱皮を助けたと想定される。

ダ・ビンチは、パチョーリに、神聖比例について彼の知るところを図形で示しながら教えた。

パチョーリ自身の数学的視点と、ダ・ビンチの才能豊かな手を借りて、パチョーリは、古典ローマ字のシステムを計算、再構築することに成功した。

パチョーリは、この天才的システムによって、商業取引を集計する方法を世界に示したのである。

『スママ』にある複式簿記システムは現在、世界中で利用されている。

そして、それは、すべてのビジネスマン、会計士、学者、学生、商人に語りかけ、それはまさに文化、国家、言語、思想、世代のちがいを超越するものである。

15世紀のパチョーリの著述に示された法則は、殆どそのままの形で、現在の企業の決算書、ビジネス解説本、スプレッドシート、財務諸表、キャッシュフロー計画、原価分析に反映されている。

近代経済史はルネサンスから、それも、その経済発展の過程を記録、集計そして伝達する方法を著述した最初の人物、ルカ・パチョーリから始まったのである。

彼は、会計の重要性を世に問うた最初の人物である。

経済の発展及び財務的安定は、容易に理解でき、しかも、信頼できる会計実務いかんで定まる。

『スママ』に示された会計原則の適用の広がりなしには、新世界の冒険的事業の多くは失敗に帰したであろうといわれている。

新大陸の直接的航路の発見に際しては、その新大陸アメリカの発見につながる投資をエリザベス女王に進言したのは、会計士であると一般に広く信じられている。

その船には、コロンブスはもとより、投資の成果について適正な会計記録を残すためとして、エリザベス女王たつての希望により、会計士が乗っていた。

ルカ・パチョーリとは何者なのか。

彼は偉大な人物であり、レオナルド・ダ・ビンチ、レオン・バッテスタ・アルベルチ、フェルデリコ、ピエロ・デルラ・フランチェスカなどのルネサンス人と呼ばれた、偉大な人々と共に生き、共に活躍した人物である。

パチョーリは、情報を交換し、著述し、新しいアイデアを展開させ、世界の前途を開いた。

彼の最高の作品は、石や絵具、大理石でできたものではなく、アイデア、視点、方程式であり、インクとパーチメントを基礎とするものである。

協力、つまり、アイデアの交換、発見の共有、数学的原則と芸術的原則との融合がルネサンスのすべてであった。

そして、芸術の科学性、科学の芸術性、そして会計が世に問われたのである。

ダ・ビンチとの交際中、また、交際後においても、パチョーリの講義活動、執筆活動は続けられた。

代数学、幾何学、数学、軍事戦略、チェス、トランプそして会計を題材に 11 冊もの本を完成させた。

16 世紀を迎え、パチョーリの名声は伝説的となった。

ピサ、フローレンス(フィレンチェ)、ヴェニス、彼の講義はどこでも満員の盛況であった。

1510 年、パチョーリは、彼の生誕の地であるサン・セポルクロ町のフランシスコ僧院の委員に任命された。

パチョーリは、ここで余生をおくることとなるが、町中がこの名高き人物との再会を喜んだ。

1514 年、パチョーリが 60 才のとき、ローマ大学で数学の講義をするよう法王レオ十世の招待を受けた。

法王は、世紀の講義を期待したからだと言われているが。

パチョーリがこの招請に応じてその役目を果たしたかどうかについては不明である。

おそらく、パチョーリは、サン・セポルクロにとどまり、そこで生涯を閉じたものと想像される。

パチョーリは、1517 年に没したとされるが、

彼の死に関する記録は確かなものはなく、サン・ジェノバの古い教会に埋葬されたともいわれている。

しかし、彼の人生とその貢献は誰もが知るところである。

ベネチア会計方式、つまり、今でいう複式簿記は、

ルネサンス後現在まで続いている最も偉大なる知的創造物のひとつである。

少年時代のパチョーリは貧しかった。

しかし、彼は、発明と著述を繰り返しながら、満たされた生涯を送ったのである。

彼は、数学者で僧侶でもあったが、会計人で芸術家でもあった。

彼は、本を書き、礼拝し、遍歴を繰り返しつつ、そして、自分を取りまく世界を知ろうとした。

そして、彼は、未来への確かな経済基盤を構築するための道具を世に残したのである。

彼の死後 500 年たった今でも、我々はパチョーリの教えを受け、我々の生活は彼との係わりあいのなかにある。

“May my teachings be accessible to everyone, so our world to the instrument of language with in the reach for the grace and glory of God” (Pacioli)

—神の御加護があらんことを—

翻訳者:浅岡忠彦(東京国際大学)

発行日:平成 3 年(1991)9 月 30 日

発行所:日本パチョーリ協会

住 所:東京都文京区小日向 3-4-14 拓殖大学商学部「三代川研究室」